

令和6年度 江戸川区立小松川第二中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	東京都及び江戸川区教育委員会の教育目標並びに地域社会や生徒の実態を踏まえ、人権尊重の精神を基盤とし、我が国と郷土への豊かな愛情をもち、伝統と文化を尊重し、公共の精神を尊重できる、心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成を目指す		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校・暴力、いじめ、体罰がなく、人権が守られ生徒が安心して通える学校・生徒一人一人を大切に、個性や得意な面を伸ばす学校・苦手なことにも挑戦でき、その気持ちを調える風土をもつ学校。 ・「思いやりのある、心豊かな生徒」 ・「進んで学び、考えて行動する生徒」 ・「規律を守り、責任を果たす生徒」 ・「心身を鍛え、たくましい生徒」 ・生徒に愛情をもって接することができる教師・職務の厳正に努め、組織の一員として職務を遂行する教師・生徒を自立させるために尽力し、生徒の成長する姿に喜びを感じる教師・生徒と共に活動し、生徒に範を示すことのできる教師
前年度までの本校の現状	成果	・学力向上の取組 ・学校図書館蔵書量の増加と、それを活用した朝読書の習慣化 ・いじめの実態把握と解消に向けた取組 ・学校情報の発信	課題	・生徒の自己肯定感を高めるための授業展開 ・生活とつながった、楽しめる体力向上の取組 ・特別支援委員会の活用と個に応じた指導の充実 ・わかりやすい指標を基にした学校関係者評価の充実

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進	・「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の実施	・都学力調査「できた」「わかった」90%	B	B	B	全国学力学習状況調査において、国語は全国平均、数学は都平均と等しい。「わかった」が実感できる授業づくりが課題。	B	自己肯定感の育成のためには、「わかった」が実感できる授業は急務。	B	生徒アンケート「学校の授業がわかりやすい」肯定的な意見は78.5%。	B	自己肯定感、大きな自信につながる。目標達成のための授業力改善を。	授業における「指導と評価の一体化」を推進し、生徒の成長と教員の能力向上に取り組む。
	○学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・外部人材を活用した放課後学習教室	・放課後学習教室を年100回実施	A	A	A	1学期終了時点で39%の達成率。間口を広げ、幅広い生徒が受講できるようにする。	A	幅広い生徒層に声をかけ、実施をすることで成果が上がっている。	A	1月末時点で、90%の達成率。受講希望の生徒数も上昇傾向にある。	A	外部人材の活用はよいことだと思う。順調な推移に安心。	区学力調査結果を分析し、教員による基礎・基本修得も図る。
	○読書科の更なる充実	・朝読書・探究的な学習の推進 ・探究過程の共有と高めあい	・朝読書年間21時間の確保 ・学習成果物を全生徒が作成	B	A	B	朝学習については毎朝実施し、読解力につながっている。学習成果物については、探究学習終了時の完成を目指す。	B	生徒の読書欲に対する蔵書率が充足している。朝読書に限らない読書週間を。	B	朝読書については、学校行事が近いときに実施できない学級がある。学習成果物はすべての学年で実施できた。	A	毎日短時間の活動が良い。新聞閲覧台が寄贈されている。新聞を読ませることも活動の一つ。	総合的な学習の時間における探究活動としっかりリンクさせ、活動の充足を図る。
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・体育の授業に基礎体カトレーニングを取り入れる。	・体育の授業において、導入時の基礎体カトレーニング実施率80%。	B	A	B	授業実施時の導入率は90%に及ぶ。成果については、全国体力調査の結果公表を待つ。	B	毎時間トレーニングに取り組み活動ができています。成果を受けて検討を行う。	B	授業実施時の導入率は90%以上をキープ。上体起こし、シャトルランが全国平均を超えるもの、長座体前屈、50m走に課題。	A	授業実施時の運動を継続できている。基礎トレーニングにももう少し力を入れて欲しい。	体力調査で見られた課題にアプローチする毎時間トレーニングを導入、継続させる。
	○部活動の在り方検討	・外部指導員を月に5回程度導入し、生徒の運動量を確保する。	・月5回の実施率90%	A	A	A	4か月間で48回の実施、1か月あたり12回となり、実施率を充足している。	A	外部指導員を活用することで、教員の働き方改革、生徒の資質向上につながる。	A	1月末時点で、144回の実施。1か月あたり14回となり、実施率を充足している。	A	外部人材の活用はよいことだと思う。順調な推移に安心。	引き続き外部指導員の活用を図るとともに、持続可能な部活動の在り方について検討を進める。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○特別支援教育の推進	・配慮を要する生徒に対して、個に応じた組織的な対応を検討する校内委員会の充実	・毎月2回の校内委員会実施率90%	B	A	B	7月末における実施率75%。スケジュール管理を徹底し、実施率の向上を図る。	B	校内委員会で組織的な検討を行う姿勢を続けて欲しい。スケジュール調整を綿密に行い、実施率の向上を。	A	1月末における実施率90%以上。実施率向上のみならず、生徒情報を共有し、適切な対応を協議している。	A	教員での検討機会が担保されているのはよい。個に応じた指導、対応の実施を。	特別支援委員会の継続的な開催に限らず、対応方法の検討、及び共有を全教員で実施していく。
	○学びのユニバーサルデザインの推進	・焦点化、視覚化、共有化の視点に基づいた学習環境の整備	・学習アンケートにおける環境満足度70%	B	A	B	一人1台端末の活用が進み、視覚化・共有化を図ることができている。学習環境の整備について、充実させていく。	B	タブレットを活用して授業を進めることは望ましい。環境満足度の調査と向上を。	A	生徒アンケート「学びの環境が整っている」肯定的な意見は73.2%。掲示物、黒板周辺環境をさらに整える。	A	まずは環境整備をしっかり進めて欲しい。個性を生かせる取組を。	タブレットに限らず、ユニバーサルデザイン教育と人権教育とを合わせて推進していく。
	○校則・学用品の見直し	・生徒、保護者、地域、教職員との話し合いの場をもち、検討を行う	・年1回の検討委員会実施	B	A	B	年間計画に生徒心得検討委員会を位置付け、生徒、保護者、地域、教職員による検討を計画している。	B	生徒や地域の方、保護者を交えて生徒心得を検討することは望ましい。検討会の様子を報告して欲しい。	A	12月に生徒心得検討委員会を実施。生徒、保護者、教員が参加し、社会通念を学ぶ場としてふさわしい心得を検討した。	A	時代の変化に合わせて検討して欲しい。開催頻度を年2回程度にして、生徒の理解を深めて欲しい。	生徒への心得の周知、及び検討について推進し、開催回数も含めて内容を検討していく。
不登校・いじめ対応の充実	○いじめ見逃しをなくす	・いじめの早期発見・早期対応	・いじめ解消率80%	B	A	A	7月末時点において、28件のいじめを発見するなど、いじめを見逃さない体制を強化している。解消率は53.6%。	B	いじめの認知については、昨年度より進んでいる。解消率の向上を。	A	作成時点で、55件のいじめを認知。解消率は80%。アンケートだけでなく、生活の中でいじめを見逃さない体制が整ってきている。	A	早期発見、早期対策が一番。数が多いのは顕在化ができていて良いこと。個別事業に目を向け、解消方法の検討を。	引き続き、法的根拠に基づいたいじめの認知に取り組む、解消率向上に努める。
	○エンカレッジルームの活用推進	・学校に行き渋りのある生徒、不登校生徒への別室登校機会の提供	・別室登校を希望した生徒の利用率80%	A	A	A	校内別室利用登録者の利用は、77.8%。学び方の多様化を学校全体で許容し、楽しい学校づくりを目指す。	A	不登校出現率が昨年度より減少しており、望ましい活動である。	A	校内別室利用登録者の利用は、80%以上となった。不登校出現率が、1月末時点で6.3%となっており、引き続き対策を講じる。	A	利用率としては高く、エンカレッジルームは十分に活用されている。	東京都の事業変更に伴う校内別室の在り方を再度検討し、生徒が学校に来られる環境を継続する。
	○hyper-QUの活用	・区実施に加え、学校独自実施の計2回の測定を通し、活動の検証を行う。	・「学級生活満足群」生徒数40%	A	A	A	学校生活満足群が、学校全体で56.2%。教職員、生徒から認められ、居心地のいい学級づくりを目指す。	A	過ごしやすい学級を作ることには、学力の育成、心身の向上に直結する。	A	学校生活満足群が、学校全体で56.8%。各学級における盛夏のあった取組を共有し、さらなる向上を目指す。	A	学校は学習の場だが、楽しんで登校できる環境にしてほしい。透明性のある学校生活を。	区の事業変更に伴うhyper-QUの活用方法を検討し、学級生徒の状況を適宜捉えていく。
学校の実現 開かれた地域社会に	○自校の取組の積極的な発信	・学校だよりのホームページ公開、学年ごとの出来事のホームページ紹介	・【学校だよりの月1回】【学年ごとの紹介を週1回】達成率80%	A	A	A	学校だよりを4月から毎月発行し、ホームページに掲載。学年だよりをほぼ毎週発行し、すべてホームページに掲載。	A	学校だよりのデータ化を含めて、ホームページやツールを用いた情報発信ができています。	A	達成率は90%以上。引き続き学校からの情報発信を丁寧に行い、地域に開かれた学校づくりを目指す。	A	ホームページが良く活用されている。学校の様子がよくわかる。	学校ホームページについて、持続可能な形で更新が継続するようシステムを構築していく。
	○学校関係者評価の充実	・生徒、保護者、教職員・地域の三者からの学校関係者評価を実施、分析、公表	・回収率80%	B	B	B	保護者アンケートを11月に実施予定。本報告書を9月学校評議員会で協議し、12月にはアンケートの結果を含めて再協議する。	B	アンケートを丁寧実施できている。回収率の向上と、内容の報告を。	B	保護者アンケートの回収率は45%。三者面談等機会を見つけて実施しているものの、わかりやすい内容の検討も必要。	B	アンケートは貴重な分析資料。未提出の方に入力を促すなど、回収率向上の工夫を。	アンケート項目の明瞭化、未入力の方への働きかけ等、回収率向上の取組を実施する。
教育の特色ある展開	○生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校	・ボランティア清掃を実施参加することで、地域の中の学校をきれいに保つ意識の醸成を図る。	・年1回の実施に際し、参加率20%を目標とする。	B	A	B	12月の推進週間において、生徒会主催の清掃を実施予定。	B	昨年度より学校周りの清掃活動を実施始めた。参加率の向上を。	A	12月に生徒会主催の落ち葉拾いを実施。20%を超える参加率となった。「花いっぱい運動」の実施も継続する。	A	地域活動への参加を促していた感謝。継続、推進を。	地域清掃活動のみならず、生徒が地域のためにできることを生徒主体で考案、実施していく。
	○小松川平井地区連合大運動会や小松川平井マラソン大会等の地域行事に参加者を募る。	・大運動会には25%、マラソン大会には10%の参加を目標とする。	・大運動会には25%、マラソン大会には10%の参加を目標とする。	A	A	A	連合大運動会には選手を含め18.7%の参加率。1月のマラソン大会に向け、機運醸成を図る。	A	地域からの要望に応じて、多くの生徒がボランティアに参加している。	A	1月のマラソン大会には19名のボランティア参加。大会規模に合わせた人員となるよう、主催者と連携する。	A	ボランティア活動にはいつも助けられている。自発的な行動がさらに現れることに期待。	引き続き地域からの要望とすり合わせ、大会規模に合わせた人数の参加を促していく。